

キャラクター名
杜松 龍弥(ねず りゅうや)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー	ワークス	不良高校生	カヴァー	不良高校生
	オルクス				
オプション	モルフェウス	年齢	17	性別	男性
覚醒	忘却	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自	名家の生まれ(LMp16)	経験	問題児(LMp20)	邂逅	いいひと(上級p32)

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	2	1	0			3	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	3	0	0			3	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	3		調達		
運転 :バイク	3		芸術 :			知識 :			情報 :裏社会	1	
運転 :			芸術 :			知識 :			情報 :		
運転 :			芸術 :			知識 :			情報 :		
運転 :			芸術 :			知識 :			情報 :		
運転 :			芸術 :			知識 :			情報 :		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
バイク(YAMAHA YZF-R3)	

合計装甲 : 0 合計回避 : 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
若田部 義明(わかたべ よしあき)	P 尊敬	N 隔意		
	P	N		
文崎 晴香(あやさき はるか)	P 好意	N 憤懣		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果 : 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果 : コスト分のHPで復活								
マルチアクション	1	3	min	至近	自身	自動		
効果 : Lv回。エフェクト以外のmin行動を1つ行う								
氷炎の剣	2	3	min	至近	自身	自動		
効果 : 白兵、命-2、攻[Lv+6]、G6の武器作成。								
地獄の氷炎	4	2	min	至近	自身	自動	Lim	
効果 : 氷炎の剣の、攻orG+[Lv×3]								
カスタマイズ	2	2	Maj	武器	-	白/射		
効果 : 判定+[Lv]D。								
コンセ:モルフェウス	2		Maj					
効果 : いつもの								
オーバーロード	1	3	Auto	至近	自身	自動	80	
効果 : 攻+[使用武器の攻撃力]。武器壊れる								
砂の結界	1	2	Auto	至近	自身	自動		
効果 : カバーリングする								
砂の祝福	1	4	Auto	至近	自身	自動		
効果 : [Lv×10]m離れた所をカバーリング								
巨匠の記憶	1	2	Maj	-	-	-		
効果 : 判定+[Lv]D。運転,芸術,知識,情報と組み合わせる								
機械の声	★		Maj					
効果 : 機械を自動的に動かす								
熱感知知覚	★		Maj					
効果 : 熱量を"視る"								
効果 :								
効果 :								
効果 :								

剣道で二段になれそうだったが「剣道は斬るものではなく打つものであり君の剣は邪剣だ」と言われて挫折し、不良になる。しかし喧嘩では絶対に得物を持たない。バイトして自分で買ったバイクに乗るのが好きだが、族に入ってるというわけでもない(知り合いくらいはいる)。

挫折から荒れた生活を送っていたとき、学校で煙草を吸っているのを、風紀委員長『文崎晴香(あやさきはるか)』に見咎められる。退学か、などと思っていた所、彼女の口から意外な言葉を聞いた。「そんなに悪そうにしないで十分悪そうに見えるからさ、煙草はやめたらどうかな? 体に悪いし、パレちゃうと面倒だよ?」あまりの言い草に大笑いして、その勢いでつい「やめる」なんて言ったのをいまだに律儀に守っている。その一件以来、無茶な奴にも物怖じせず更生(……?)を訴える彼女を陰ながら見守ったりしていた(彼女にはパレしていたと言及はされなかった模様)。

■晴香が失踪する前の会話
「大学、どこ受けるの?」
『わかるわけねえだろ。おまえはどうすんだ?』
「東京の大学、行こうと思ってる」
『……そうか。わかるといいな。しゃあねえ、俺も神様に頼んでやるよ。俺は別に頼みたいこともねえし』

■剣道の師でもある祖父との会話
「昇段試験であれこれ言われたと聞いたよ」
わざわざ胴着を脱いだタイミングで話してくれた。祖父と孫で話そう、と。
『はい……うん、俺は竹刀でも本質は剣だと思ってる。だから、なんで斬るのは正しくない、なんて言われるのかわかんない』
「剣道にはな、ただ倒せばいいというのではないという理念がある。ゆえにお前の剣を憂う者もいるわけだ」